



パキスタン

BOP層実態調査レポート

パキスタン・イスラム共和国 - 基礎データ -

面積	79万6,096平方キロメートル
人口	1億9,171万人 (2014年 計画・開発・改革省による予測)
首都	イスラマバード 人口 147万9,000人 (同上)
実質GDP成長率	4.14% (2014年)
名目GDP総額	2,501億4,000万ドル (2014年)
一人当たりの名目GDP	1,342.73ドル (2014年)
対米ドル為替レート	101.1ルピー (2014年平均値)

出所: JETROホームページ 国・地域別情報「パキスタン基本情報 概況」(2016年6月更新)

- 調査対象 教育事情
- 調査月日 2015年6月

◆ はじめに

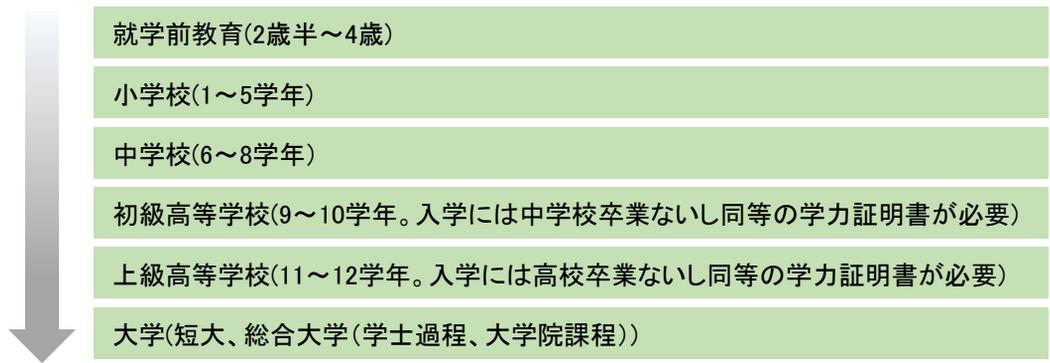
パキスタンにおける教育は、以下のとおり中央政府の教育省と地方自治体等の監督下にある。

- ◆ 教育省
主に教育課程の作成・認定と、教育に係わる研究開発への財政措置を行うとともに、国家教育委員会を運営。
- ◆ 地方自治体
各地の教育委員会を運営。

(注)私立学校はNGOが運営する教育機関を含め、上記両委員会および英国ないし北米教育検定委員会の許認可を受け、また協力を得ている。

パキスタン憲法第25条で、政府は5～16歳(小学校～初級高等学校)の子供に対し義務教育を施さなければならない旨定められているが教育に対する国民の認識が低いことなどから、相当数の未就学児童がいる。

パキスタンの教育は、基本的に以下の6段階に分かれている。



私立学校においては、上記以外に英国式ないし米国式(下記注参照)の独自の課程を設けている学校もある。

(注) 英国式; ケンブリッジ方式(GCE)。基礎過程(GCE-Oレベル: 小～初級高校に相当)と同過程修了後の専門課程(GCE-Aレベル)に分かれる。
 米国式; Advanced Placement方式(AP)。高校での大学科目教育。取得単位は大学での単位として認められる。

◆ 履修科目、進級等

教育段階	就学前教育	小学校	中学校	初級高校	上級高校	大学	
		義務教育	義務教育	義務教育		単科大学	総合大学
就学年数	2年間	5年間	3年間	2年間	2年間	2年間	4年間
就学年齢	3～4歳	5～10歳	11～13歳	14～15歳	16～17歳	18～19歳	18～21歳
学科	図工、アルファベット、数字	科学、算数、宗教、社会	科学、英語、ウルドゥ語、数学、宗教、社会	英語、ウルドゥ語、国内諸民族の言語、科学(生物、化学、物理、数学、コンピュータ)、国内地理・社会、宗教	英語、ウルドゥ語、物理、化学、生物、数学、コンピュータ、宗教、国内地理・社会	英語とウルドゥ語は必須。他の科目は学生の選択による	
試験	校内試験	校内試験	校内試験	修業中: 校内試験 卒業試験: 初級高等教育委員会が実施	修業中: 校内試験、 卒業試験: 上級高等教育委員会が実施	校内試験	
進級	留年は無し	合格点以上で次の学年に進級	合格点以上の学生が次の学年に進級	合格点以上の学生が次の学年に進級	合格点以上の学生が次の学年に進級	合格点以上の学生が次の学年に進級	



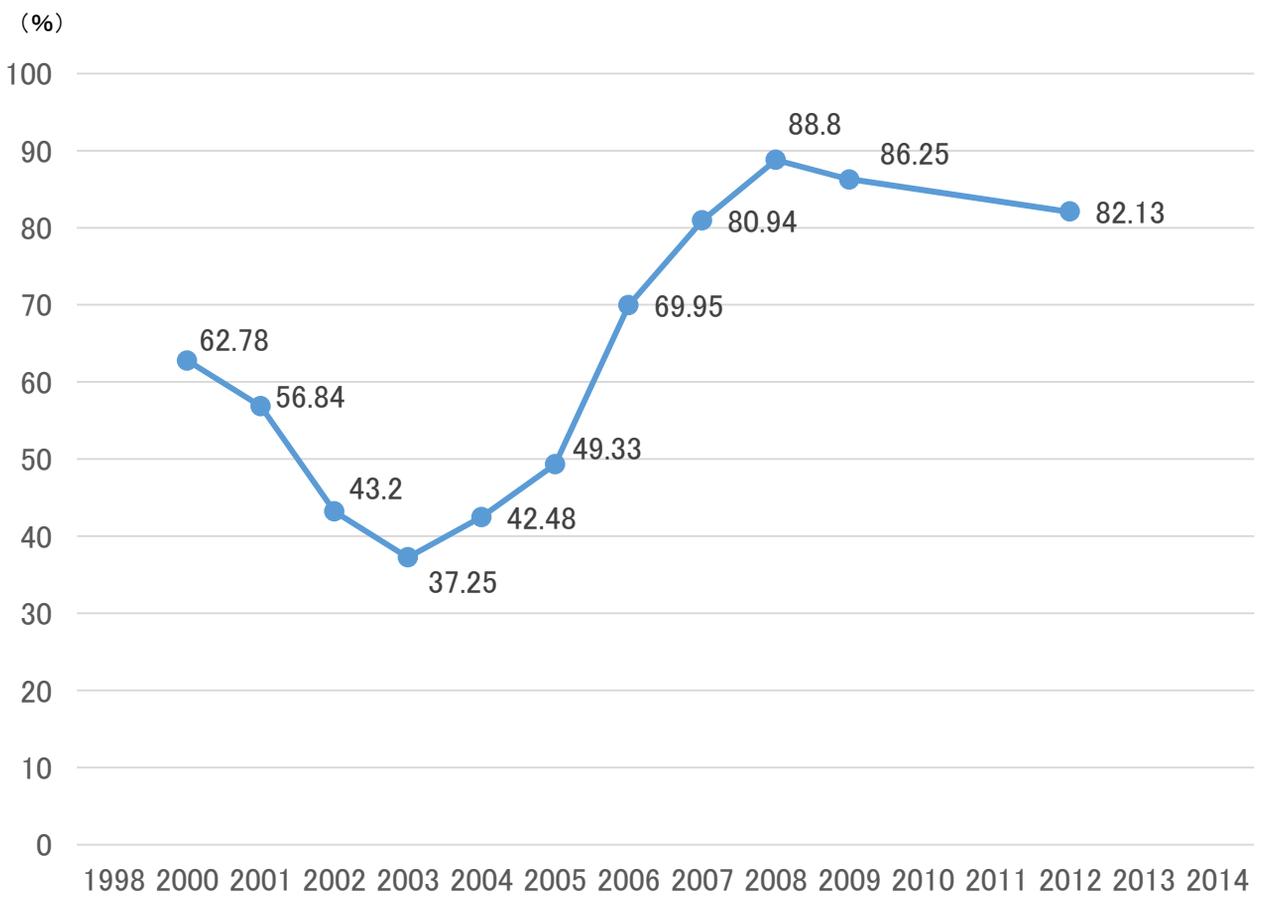
◆ 学費

国家及び各地の教育委員会運営の公立学校	基本的に無料
私立学校	学校によって差が大きく月額200~25,000PKR
NGO運営の教育機関	制服代を含め基本的に無料。ただし市民の基金が運営する学校は5PKRの月謝を要するなど、例外もある。

義務教育(小学校~初級高等学校)を受けている全国の学童・生徒の31%が私立学校に通っている。しかし地域別にみれば、農村部では80%以上が公立学校に入学しているが、都市部では51%と私立通学の方が多い。

◆ 就学率の推移

パキスタンの就学率は、2003年に37.3%と底を打った後、急速に向上して2008年に88.8%まで急上昇したが、その後微減となり2012年82.1%にとどまっている。



出所: UNESCO統計



◆ 教育機関に関する法律

政府は2009年に教育政策を整備し、各地方自治体は、これに沿って私立を含む全ての学校に対し運営に際して各教育委員会等への事前登録を義務付けるなど、監督・取締り、発展促進等に関する条例を公布している。2009年に布告された教育政策の主な骨子は以下のとおり。ただし、各目標達成に向けての具体的な取り組み計画は発表されていない。

- ・ 全ての小学校における教育内容等の改善
- ・ 義務教育以後の上級高校への就学率を2020年までに現状の4.7%から10%に引き上げる。
- ・ 教師の資格を一般教養や自然科学、教育学等の学士取得者に引き上げる。
- ・ 全国統一の試験制度確立
- ・ イスラム学校を正規の教育システムに組み入れる。

- ・ 小学1年からの英語教育実施
- ・ 中学1年からの英語による科学及び数学授業の実施
- ・ 教育費の国庫予算を2015年までにGDPの2%から7%に引き上げる。
- ・ 教育分野への民活導入促進
- ・ 教育における官民連携促進

◆ 言語

私立学校のほとんどが学校での使用言語を英語と謳っているが、実際に教室で英語だけを使っているのはトップクラスの学校に限られており、その他の私立校では英語とウルドゥ語が混ざって使われている。また公立学校では、各地方の民族の言葉が次第に使われるようになってきている。

◆ イスラム学校

イスラム学校ではコーランの授業が行われているが、その他の教科課程は各地教育委員会などの協力を得て一般学校で行われているものと同じカリキュラムの実施に努めている。男性は生徒、教師とも伝統衣装のカミーズ(シャツ)とサルワール(ズボン)を着、女性はドウパッター(長いスカーフ)で髪を覆うこととなっている。

◆ 制服と給食

制服と給食を支給しているのはNGOが運営する学校とイスラム学校だけで、他の学校は支給していない。

◆ 有名公・私立学校

公立学校	全てカラチ市内 小～初級高校一貫校	Kala School	カラチ新市街
		Lal School	FC 地区
		Anjuman School	リアクアタバード地区
		Karachi Acadmey	ガリハバード近郊
		Lyari high School	ライアリ町
私立学校	全てケンブリッジ方式のGCE-O～Aレベルのカリキュラムを行っており、並行してパキスタン式の小～初級高校までの授業を行っている学校もある。	Aitchison College	ラホール 市
		Lahore Grammar	ラホール 市
		Convent Schools	カラチ市
		The City School	国内主要都市に姉妹校・分校を展開
		Beaconhouse School System	国内主要都市に姉妹校・分校を展開

※大学や短大では、未就学児童からの一貫教育を行っている学園が多い。



◆ 教育分野の抱える課題

教育の不均一さ

公立学校と私立学校で使われる教科書などが統一されていない、公立学校では政府の予算手当てが充分ではない、私立学校では授業料の設定にガイドラインが無く学校によって月謝に200~25,000PKRもの開きがある現状がある。

地域格差

面積の最も広いバローチスタン州は、人口の最も多いパンジャブ州や2位のシンド州に比べ学校が整備されていないなど、地域格差がある。政府の管理監督が充分ではなく、学校等の不足や、教員の養成不足などによる。

小学校就学率(%)

	パンジャブ州	シンド州	NWFP	バローチスタン州
2005~2006年	68	67	66	40
2007~2008年	71	72	80	45

(注)NWFP;カイバル・パクトウンクワ州

男女格差

小学生の男女比が10対4であるなど、女性の就学率が低い。私立学校では、特に男女同権意識の啓発に力を入れており、私立学校が増えることでこうした状況の改善が期待される。FATA(連邦直轄部族地域)やPATA(カイバル・パクトウンクワ州直轄部族地域)などの一部地域では、女性が学校に通うことを許さない習俗があり、親が学校に通わせたとしても小学校教育で充分と考え、それ以上進学を許さないこともある。

技術教育の未整備

技術教育の欠如が最大の課題で、教育政策でも焦点を当てられたことがない。公立の技術専門学校や職業訓練所はあるが、教師や指導員が不足しており、卒業生への職業斡旋が適切に行われていない現状がある。

国家予算

中央政府の教育費予算はGDPの1.5~2%と極めて少ない。

教員の水準の低さ

他の職業につけなかった人が止む無く教師になるケースが少なくなく、教師としての専門知識を十分に備えていない現状がある。

貧困

貧困家庭では、子どもを学校に通わせずに働かせているケースもある。



◆ 教師の待遇

給与やその他給付は、私立学校の場合、資格と経験に応じて8,000～50,000PKRと幅があり、学校当局との交渉によって決まる。公立の場合は、公務員格付けに応じて10,000～85,000PKRの範囲となっている。公立校より私立校の給与が低いのは、私立校が乱立状態にあり競争が激しく、公立校と異なり統一基準が無いためであり、私立校の先生は概して安い給料で長時間労働を強いられている。

◆ 学習塾

教師の教える能力が充分でないこともあり、授業についていけず予習や復習のために放課後学習塾に通う学生も少なくない。そうした学生のため、公立、私立の優秀な教師を集め、多くの民間学習塾が開かれている。これらの塾は、教育委員会や教師の所属校に登録や届け出をする必要は無く、学生の補習を行うと共に、給料の低い教員の収入源ともなっている。

◆ 学校の設備、文房具

- ・ 私立学校の殆どがホワイトボードを使用しており、テレビや校内放送設備、パソコンなどに連動するスマートボードなどを供えている学校もある。公立学校では黒板を使用しており、私立校のようなAVやIT機器は備えていない。
- ・ 殆どの私立学校が、小学生からパソコンを教えている。使われているパソコンはデスクトップ・タイプ。公立学校でパソコンを教えているところは、数校に限られている。
- ・ 筆記具は、一般的に小学校1年からボールペンを使用させている。消しゴムで消せる鉛筆や修正テープなどは使わないよう指導しており、試験の答案などを修正する際は、見え消し線を引いて書き直すこととなっている。しかし実際には、生徒、教師とも、修正テープなどを使用している例が少なくないと言われている。
- ・ 文房具は、学校が購入し学期の始めに生徒に売っているケースが多いが、必要なもののリストを生徒に渡して買って来させる学校もある。鉛筆や色鉛筆はファーバー・カステル(ドイツ)のものが良いとされている。

◆ インタビュー調査結果

就学児童を持つ家庭および学校を対象に行ったインタビュー調査の結果を以下に紹介する。

就学児童家庭

(1) 学校を選ぶ基準

特に、低所得家庭では自宅に近い学校に子供を通わせている。これは、概して低所得の人々はそれぞれの地域に集まって住んでおり、それら地域にある学校は、私立校でも住民の所得水準に合わせて最低水準の200PKR程度と月謝が安いためである。高所得層の家庭では、当然のことながら、通学距離に関係なく教育の質を重視して、カラチやラホールグラマースクールなど有名校に通わせている。中間所得層の家庭は中間に位置し、教育の質と通学距離をかね合わせて学校を選び、中流ないしは上流校に通わせているが、中でもBeaconhouseのように分校や姉妹校を全国展開している学園系列で、自宅に近い学校が好まれている。

(2) 授業、設備

教室で使う言葉は、殆どがウルドゥ語と英語で、上流校では英語のみ。大部分の学校がホワイトボードを使っているが、体育の出来る校庭は、私立校を含めて全ての学校が持っていない。これは、学校が住宅街にあり敷地面積が概ね100㎡弱と限られていることによる。



学校 (Iqra Islamic Foundation School)

- ・ 低所得家庭の子供を対象としたイスラム学校で、カラチ市内に4ヶ所のキャンパスを持ち小学校から初級高校までの10年間教育を行っている。
- ・ 国内で標準となっている普通課程の授業を行うが、毎日1時限、コーラン暗唱などのイスラム教授業がある。
- ・ その他、希望に応じて2年生修了後コーランの専修過程も設けられている。同課程を選んだ生徒は、3年生から普通課程の授業は受けず2年間コーラン習得に専念し、専修課程修了の後、3、4年生の授業を1年間に短縮した補習授業を受け、1年遅れで5年生に復帰する。
- ・ 校舎は、元々住宅地域に建てられた住居用の小さな建物であり、学校を運営する基金が1校当たり平均80,000PKRの月額家賃を払って学校用に賃借している。1校の平均生徒受け入れ能力は300~400名。運動場のスペースはないが図書館は備えている。
- ・ 教員は1校当たり12~15名で月給は5,000~10,000PKR。殆どが上級高校卒業者だが、教員としての正式な訓練は受けていない。
- ・ 学費: 入学金5,000PKR、保証金1,500PKR(卒業時払い戻し)、年間授業料1,800PKR、諸経費1,500PKR

◆ 調査を終えて

- ・ 運営諸経費がそれほど掛からないこともあり、私立校は概ね経営状態がよい。特に都市部の有名校は、教育内容が優れており教師と父兄の関係も良く、海外の最新教育法の取り入れも早い。しかし、それは月の授業料が10,000PKR以上の中流以上の学校に限られている。
- ・ 人口増加が続いているため、手ごろな授業料である程度の質の教育を受けられる学校に対する需要は大きい。都市部の場合、平均月収150,000PKRの家庭が負担できる月額授業料は10,000PKR程度が、学校進出の際、授業料設定の目安と言われている。
- ・ 現状抱えている課題には、以下の点があると考えられる。
 - 地域格差、教員の教育・訓練不足、就学児童家庭の貧困問題
 - 学校に対する指導監督が充分に行き届いていない。
 - 私立校の数は多いが、みな敷地が狭く、遊び場や体育のためのグラウンドの無い学校が多い。
 - 制服の支給や給食を行っている学校は無く、父兄が用意しなければならない。
- ・ 全体として、義務教育は私立校が公立校より質の上で勝っているが、大学は私立大より公立大学の方が優れている。これは、政府の財政支援や外国大学との連携関係が強いことなどによる。

パキスタン国内の大学ランキング

1	Quaid-i-Azam University, Islamabad	6	National University of Sciences and Technology (NUST)
2	Pakistan Institute of Engineering and Applied Sciences	7	Pir Mehr Ali Shah Arid Agriculture University, Rawalpindi
3	Aga Khan University, Karachi	8	University of Health Sciences, Lahore
4	University of Agriculture, Faisalabad	9	COMSATS Institute of Information Technology (CIIT), Islamabad
5	University of The Punjab, Lahore	10	Lahore University of Management Sciences, Lahore